

逸話2 上杉軍に対してどうする？

徳川家康は1600年（慶長5）7月24日、上杉景勝討伐のために会津に向かっていた途上、下野国小山^{おやま}に本陣を置きました。その時、石田三成拳兵の報が入り、翌25日、急遽家康は本陣に諸将を招集して軍議を開きました。その結果、反転西上して石田を討つことが決定されました。これがいわゆる「小山評定」です。

秀康は関東の留守を預かる総大将として宇都宮城に入り、上杉軍の南下を阻止しました。合戦後、家康は秀康の功について「その方が奥州を強力に抑えてくれたので、関東は安泰であった」と讃えています。（「南越雑話」「越藩史略」）

参考：関ヶ原の戦いの際の家康・秀忠・秀康軍の動き

→ 家康の動き → 秀忠の動き → 秀康の動き

